

三田市におけるサクラソウ科の自生地の観察記録

法西 浩*

1. はじめに

2014年の春、三田市加茂加茂山でサクラソウ科サクラソウ *Primula sieboldii*, クリンソウ *Primula japonica* の自生地をみつけた。サクラソウ、クリンソウともに県指定の希少種で、サクラソウは要調査種、クリンソウはRDAランクである。2014年4月6日から9月15日までの、サクラソウ、クリンソウの観察記録を報告する。

2. サクラソウ科の自生地の発見

三田市加茂に人工湖千丈寺湖がある(図1, 写真1)。その南岸は三田市兵庫県立有馬富士公園の低山地から続く山の斜面に接している。ここに加茂山第1~第4公園があり、その第2公園付近の小さな谷間がサクラソウ科の自生地である(図1, 写真2)。これが初観察になるのかについて文献を検索したが、現在のところみつからない。

3. サクラソウ、クリンソウの観察記録

サクラソウ科の発見は、前年の2013年にさかのぼる。2013年4月7日、加茂山第2公園付近の谷間(写真2)で、サクラソウ科、おそらくクリンソウと思われる苗をみつけた。

クリンソウをみつけた経緯について簡単に述べたい。前年2012年秋に、オサムシ調査をする場所を探していたとき、写真2に見るように、第2公園の南斜面だけ

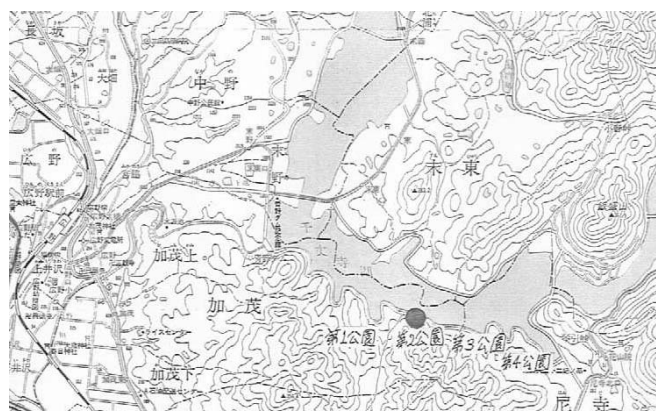


図1 三田市加茂のサクラソウ科自生地(●)

が樹林の間伐が始まり、明るくなっていて、二ホンジ



写真1 千丈寺湖

写真2 サクラソウ科
自生地の谷間



写真3 サクラソウの
花茎立ち上がる(4/6)

写真4 クリンソウの葉
大きく展開
花茎は上がっていない(4/6)

カの食害と思われる下草の少ない斜面になっていた。2013年のオサムシ調査の最適地と思った。下草を観察すると、クリンソウらしい苗と、シカの糞と足跡があった。以前、家庭園芸をしていた折にみたサクラソウ科の苗そっくりで、また、サクラソウ科にはシカの好まないプリミンがあり、手がかぶれる人がいることも知っていた。

次に8月4日に訪れた時は、花茎に花はなく、果実をつけていた。花茎は17本あった。翌2014年は慎重に発育の経過を観察すべきだと思った。

待ちに待った春、オサムシ調査の目的で、2014年4月6日に自生地を訪れた。昨年みられなかったサクラソウが2株みつきりびっくり仰天。うち1株は花茎が上がっていた(写真3)。しかし、クリンソウの苗は地面に葉を大きく展開していたが、花茎はまだ上がっていなかった(写真4)。

4月12日、サクラソウは多くの蕾をつけていたが、まだ開花していなかった。

*武庫川づくりと流域連携を進める会 Hiroshi HOSAI

4月19日、サクラソウの開花が始まった（写真5）。

4月26日、サクラソウは開花最盛期を迎えた（写真6）。クリンソウはやっと茎が現れ、多くの蕾をつけていた（写真7）。

この時期この谷間では、草本ではタチツボスミレ、シライトソウ、シソバタツナミが咲き、カヤツリグサ科のオニガヤツリ、アゼナルコスゲが茂る。木本ではウツギ、タニウツギが春に、夏になるとネムが咲く。

5月10日、クリンソウは最盛期（写真8、9）、サクラソウの開花は終わり、果実（中に種子）をつけていた（写真10）。

5月24日、第2公園の千丈寺湖岸で、キンポウゲ科カザグルマ（RDAランク）¹⁾ 1株、白い4輪の清楚な花を見た。後日、カザグルマを保護する会のKさんから、この人工湖が建設されるにあたり、ここの村（今は水没）の周辺に自生していたカザグルマを保護するため、10株を湖の水辺の湿地に移植した、と聞いた。そのうちの1株だろうか。今カザグルマがだんだん少なくなっている。もっと増やしてほしい、と願う。

6月8日、クリンソウの全ての花茎の花軸には果実（中に種子）を多数つけていた（写真11）。サクラソウの花は枯れていた。

前年2013年9月9日、第2公園付近の森でオサムシの調査をしている折に、右手長袖の先端に体長6mmのマダニ種（種不明）が止まっていた²⁾。この個体は標本にして保管している。さらに、マダニにかまれると、死に至ることもある「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に感染することがあるので、注意を促すレポートを書いた²⁾。野外で活動するとき、この谷で追試（あるいは継続調査）されるときは注意していただきたい。

9月15日、クリンソウの花茎はすべて枯れていた（写



写真9 クリンソウ
最盛期 (5/10)



写真10 サクラソウの
開花終わり、果実を
つける (5/10)



写真11 クリンソウの
花軸は多数の果実を
つける (6/8)



写真12 クリンソウの花茎は
すべて枯れた (9/15)

真12)。クリンソウの親株の周りには小苗が多数みられた（写真13）。前年より苗が多いように思われたが、個体数を数えていないのが残念である。

サクラソウ：多年草、花茎10～20cm、花径約20mm、淡いピンクの清楚な花をつける。

クリンソウ：多年草、花茎50～70cm、花茎から数段の花軸を出す。これにより九輪草という。1段の花軸に数10輪つける。花径約30mm、濃桃色の鮮やかな花をつける。

4. 考察と展望

本論文は、2014年11月1日の第3回武庫川市民学会研究発表会に、口頭発表した要旨である。この発表に



写真13 クリンソウの親株の周りに
小苗が多数みられる (9/15)



写真5 サクラソウ開花
始まる (4/19)



写真6 サクラソウ開花
最盛期 (4/26)



写真7 クリンソウの花茎
立ち上がる (4/26)



写真8 クリンソウ
最盛期 (5/10)

対して、参加者から次のような質問を受けた。

「今回の発表は、三田市のこの谷間には初めはサクラソウ科がなく、2013年にクリンソウが見つかり、さらにサクラソウも見つかり、その発芽から結実するまでの経過を追ったのですか。もう少し正確に経過を教えてくださいたいのですが。」

それに対する回答が以下に述べる考察と展望である。

2012年にこの谷にオサムシの調査に入ったが、クリンソウには気づいていなかった。本当はすでにあっただかもしれない。また、2013年にクリンソウが見つかったときは、サクラソウには気づいていない。2014年に初めてサクラソウ2株を確認した。これもすでにあっただかもしれない。

2013年春にクリンソウを見たとき、「しめた」と思った。クリンソウにまず間違いはないだろう。2011年の2月11日に、三田市の兵庫県立人と自然の博物館主催の「共生のひろば」で、篠山市の多紀連山のクリンソウを守る会が、多紀連山のクリンソウ群の実態、植生調査、保護活動の報告をした³⁾。「共生のひろば」は毎年2月11日に開かれる、地域で研究・保護活動をする方々の研究発表会である。この報告を踏まえて、筆者も三田市におけるクリンソウの植生観察を思い立ち、観察意欲、モチベーションがどんどん高まってきた。

多紀連山の数箇所の谷間で、数万株が自生している³⁾。このクリンソウは2007年に発見され、以来、調査・保護活動が続けられている。なぜこのような群生が始まったのか。実は、二ホンジカの増殖が近年著しく、林床の下草が食害されたという³⁾。サクラソウ科には有毒物質プリミンが含まれ、「不嗜好性」植物となり、食害を受けないため、サクラソウ科が増加した、と結論づけている³⁾。

三田市でサクラソウ科の観察を続けているとき、2014年5月20日の神戸新聞で、県指定の絶滅危惧種クリンソウ群生拡大が報じられていた⁴⁾。ここでも「不嗜好性植物」プリミンのため、サクラソウ科が増加したと結論づけている。

クリンソウを守る会は、地元の保護活動は地域の活性化につながることに触れている³⁾。しかし、クリンソウの大群落のために植生の多様性が失われると予想される。植生の貧弱化は全く述べられていないが、こ

れは残念なことである。

三田市のこの谷のクリンソウはどうか。二ホンジカの食害が始まり、糞、足跡も多く見られ、今後、この谷でサクラソウ科の群生が予想される。この谷に見られるタチツボスミレ、シライトソウ、シソバタツナミは先に述べたが、今後どのような影響を受けるのだろうか。今後どのような保護活動をすべきであろうか。

2015年2月11日の「共生のひろば」に出席した。植物の専門家、ひとはく地域研究員で、筆者の指導担当である主任研究員の高橋 晃先生にお会いした。三田市でサクラソウ科の経過観察をしていることを伝えると、「とてもいいテーマだと思いますよ。三田市でもクリンソウが増えてきそうですか、やはり。」ということだった。今後も先生に相談、指導、校閲を仰ぎようと考えている。

三田市のこの谷でサクラソウ科を観察・鑑賞に訪れる方々は、道から森に入ることになる。この谷にはマダニが多く生息している²⁾。かまれないようにくれぐれも注意していただきたい。

61

5. まとめ

三田市加茂加茂山第2公園付近の谷間で、2014年春から秋まで希少植物サクラソウ科サクラソウ、クリンソウの発育、開花、結実の経過を観察し続けた。また、関連した文献の考察を踏まえ、今後この谷間がサクラソウ科で埋め尽くされるだろう、と予測した。

参考文献

- 1) 兵庫県県民生活部環境局自然環境保全課(2003)改訂・兵庫の貴重な自然—兵庫県版レッドデータブック2003—, 382pp., (財)ひょうご環境創造協会.
- 2) 法西 浩(2013)「フィールドレポート:マダニにかまれないように!」, 武庫川, No. 61, 5-6, 21世紀の武庫川を考える会.
- 3) 多紀連山のクリンソウを守る会(2011)「多紀連山のクリンソウ群生の実態, 植生調査, 保護活動そして里山文化再生」, 共生のひろば, 6, 57-59, 兵庫県立人と自然の博物館.
- 4) 県指定の絶滅危惧種クリンソウ群生拡大:神戸新聞 2014年5月20日.